

授業で使えるグループワーク素材 I - 5

「防災コミュニケーションワークショップ (BCW)」(45~50分) 対象/小学生用(4-6年)・中学生用・高校生用

1. プログラムの趣旨

コミュニケーション能力の大切さは「日常」に限ったことではない。ここでは、児童・生徒が「非日常」の災害時のコミュニケーション能力の大切さに「気づき」「考え」「実行する」ことについて学習する

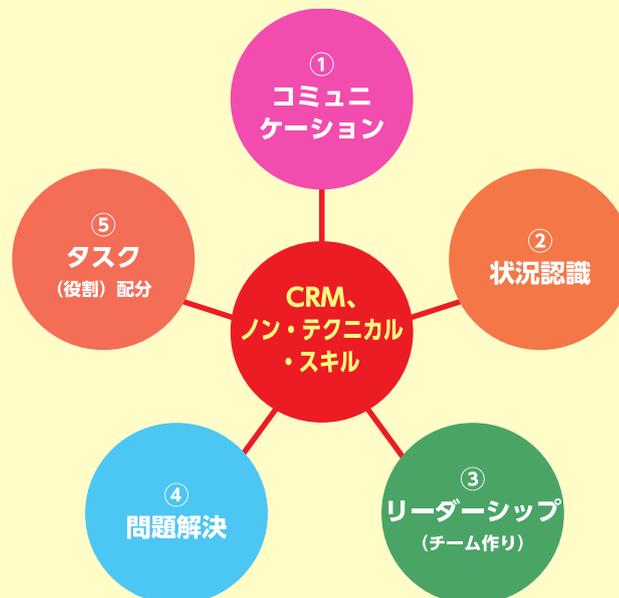
2. ねらい

災害時に「自分のいのちは自分で守る＝生きぬく力」はとても大事だが、自分のいのちを自分で守るためにはどのように行動すればよいのか。災害時には、まわりにいる人々が協力して問題解決をしていかなければならない。そこでこのプログラムでは、航空業界や医療現場で用いられているCRM、ノン・テクニカル・スキルの手法を取り入れることで、児童・生徒が生きぬく力を身につけることを目的とする。

●CRM (クルー・リソース・マネジメント)、ノン・テクニカル・スキル

CRM (クルー・リソース・マネジメント) とは、航空業界において開発された手法で、積極的なコミュニケーションにより情報交換をおこない、利用可能なあらゆる資源を活用して、より適切な意思決定を支援し、チームが協力して、エラーの発生を少なくしようとする活動と技術を言う。

パイロットの操縦技術はテクニカル・スキルと呼ばれ、CRMに活用される技術は、ノン・テクニカル・スキルと呼ばれ、次の5つのスキルで構成されている。



●各スキルの解説と災害時の活用法

①コミュニケーション

コミュニケーションは、すべてのスキルにつながる最も基本的なスキル。単に良好なコミュニケーションが求められているだけではなく、必要な情報をすべて共有するために、発言を躊躇する雰囲気をなくすことが求められている。災害時は特に、時間の限られた中で自分たちのいのちを守るために、様々な角度からの発言を適切に判断していかなければならない。意見を出し合える関係が重要。

②状況認識

状況を正しく認識するためには、すべての情報を共有する必要がある、意見を述べることを躊躇しない雰囲気が必要。特に災害時は知識だけでなく、なんとなく気づいたことや五感で感じたことを話題に取り上げ話し合うことが重要。また、状況を冷静に受けとめることも大切。

③リーダーシップ（チーム作り）

リーダーには誰もがなることができる。また、リーダーだけががんばるのではなく、メンバーも常にリーダーを助けるために活動しなければならない。すなわち、意見が食い違うことは当たり前で、異なった意見を押しさえつけることなく、時間以内に意思決定を行うことを第一に、メンバーが協力をする。これは災害時も同じである。なお、チームの活動には次のような視点が必要である。

1. 他者を支援、2. 対立を解決、3. 情報を交換、4. 活動を調整（みんながバラバラに動いてはチームは機能しない）、5. 他者の活動をモニター（見習う）

④問題解決

完璧な解決法は簡単には生まれない。集団の問題解決・意思決定がうまくできないのは、すべての情報が出尽くしていないため、正しい状況認識ができていないためである。リーダーにはすべての情報を引き出すことが求められ、メンバーには気がついたことをすべて発言することが求められる。職位、年齢、経験、先輩後輩、知識のあるなしにかかわらず、下の者から上の者への意見の表明、間違いの指摘などが行いやすい雰囲気が必要。また、集団の意思決定には時間がかかることが欠点。与えられた時間の中ですみやかに意見の食い違いを解消し、意思決定を行うことが求められる。判断して決行することが、災害時には重要。

⑤タスク（役割）配分

メンバーには、それぞれに少しずつ違った能力がある。能力に見合った役割が与えられ、与えられた役割をすべての人が全うすることがチームの活力になる。また重要なのは、能力のあるものは能力の劣るものを助け、力のあるものは力のないものを助け、チーム全体として最も効果的な協力体制を作ることである。

指導のポイント：グループ活動を中心に、プログラムに積極的に取り組むだけでなく、ふりかえりシートを通じて児童・生徒がCRM的観点に「気づき」、普段から「考え」、災害時に「実行」することが大切であることを学習する。

※多数決を避ける：児童・生徒は成長すればするほど、多数決の論理を利用して、判断しがち。しかし、このプログラムでは、メンバー一人ひとりの「気づき」の声をメンバー全体に伝えて、なるべく多くの選択肢の中から判断できるプロセスを大切に指導していく。